



TOKIOMARINE

東京海上ホールディングス株式会社

東京海上グループ

CSRブックレット 2017

ともに未来へ



テーマ
1

安心・安全をお届けする

テーマ
2

地球を守る

テーマ
3

人を支える

商品・サービスを通じて
安心・安全をお届けする

自然災害に備える

少子高齢化に対応する

地域とともに地球を守る

グローバルな気候変動・
気象災害から人々を守る

多様性を尊重する

人を育てる

世界の課題

*「国連持続可能な開発目標」より



あらゆる年齢のすべての人々が健康的に過ごせるようにし、福祉を促進していくことを目指します。都市の居住環境が安全・快適で文化的なものになるよう取り組んでいきます。



気候変動とその影響を軽減することを目指します。陸と海の汚染を減らし、その資源や生態系を守り、将来世代に引き継いでいきます。



性別や年齢、障がいなどによらず、すべての人々に質の高い教育を提供し、学びやスキル向上の機会をもたらし続けることを目指します。人や国の不平等を是正し、社会・経済格差の解消に取り組んでいきます。

目次

*本文中の所属・役職・肩書きなどは取材当時のものです

P6-7 損害サービス

P8-9 保険啓発ゲームアプリ

P10-12 ライフスタイルの変化と保険

P14-15 Green Gift
マングローブ植林活動

P16-18 Green Gift
地球元気プログラム

P20-22 リスクと未来を考える授業

P23-25 障がい者スポーツ支援

P26 トップメッセージ

P27 付録(防災クリアファイル)

よりよい未来に向かって。
皆様とともに、歩み続けていきます。

地球環境や社会情勢が絶え間なく変化する中、お客様や社会に寄り添う存在として、東京海上グループは、安心・安全な未来に向けて日々挑戦し続けたい。3つのCSR主要テーマにグループ一丸で取り組み、皆様とともに、サステナブルな未来づくりを進めていきます。

世界が一丸となって解決を目指す課題

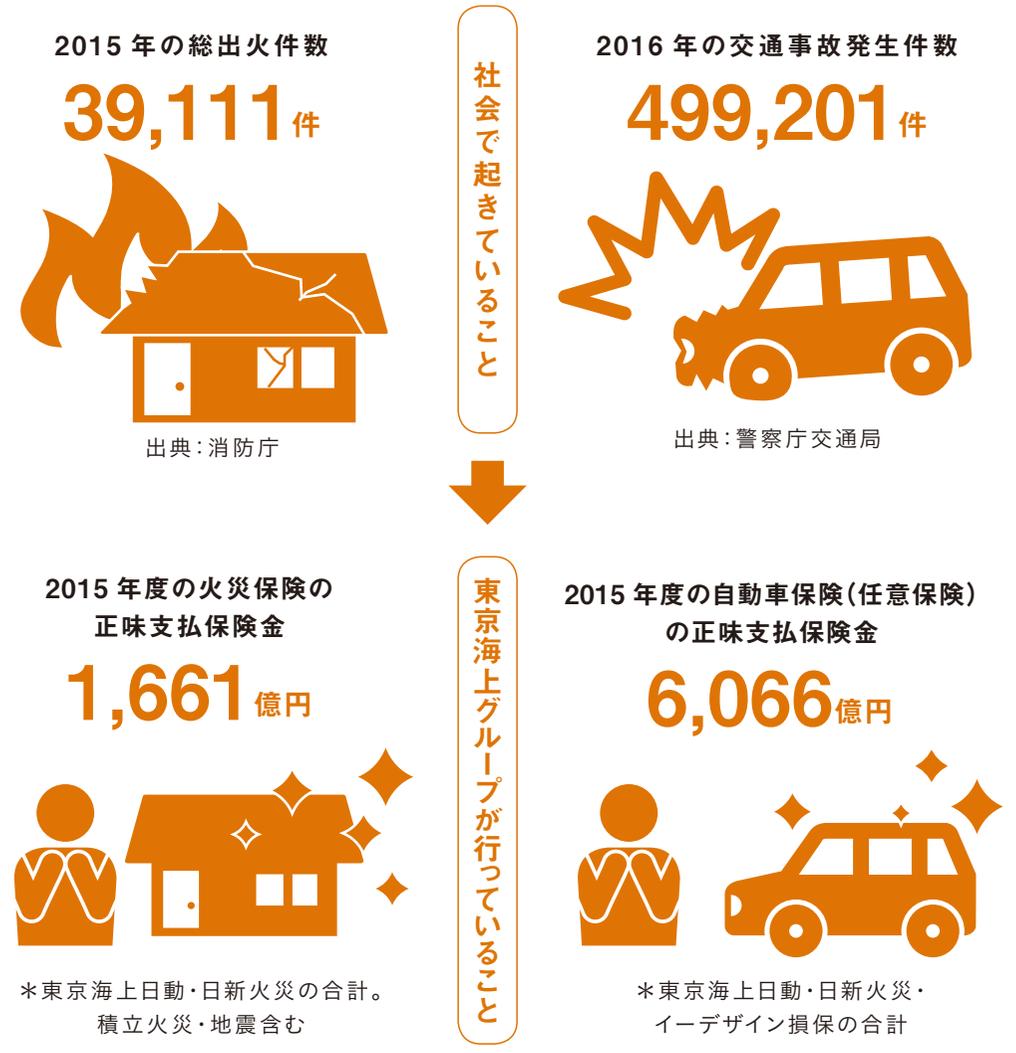
～国連持続可能な開発目標～



2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030 アジェンダ」が採択されました。このアジェンダは、17の目標と169のターゲットからなる行動計画「持続可能な開発目標 (SDGs)」を掲げています。

安心・安全をお届けする

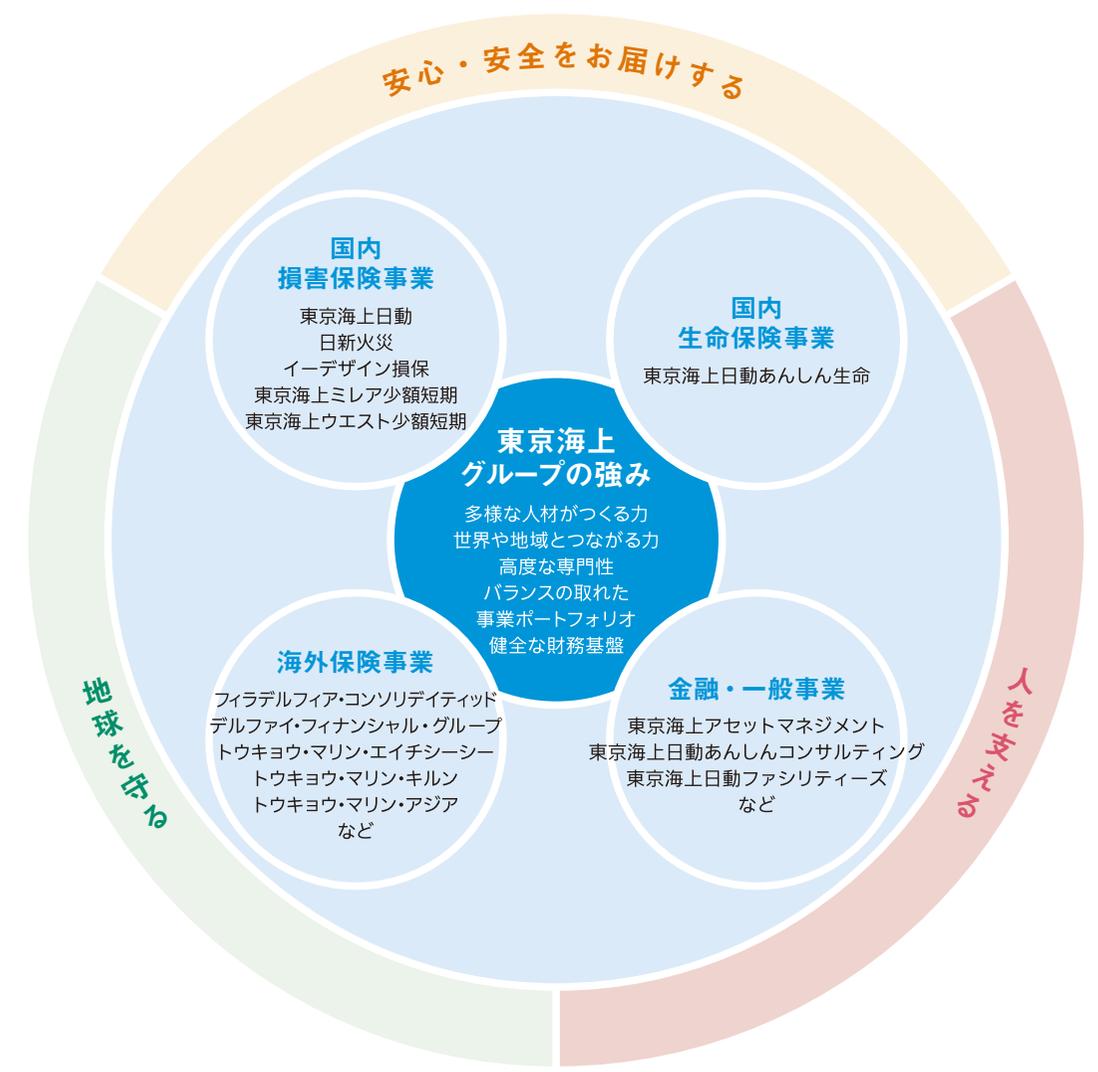
暮らしのリスクから皆様を守り、挑戦を応援していきたい。



日々の暮らしには、一人ひとりが注意するだけでは回避できない困難が潜んでいます。
 社会や技術の進展によって、新しいリスクや挑戦の機会も生まれています。
 私たちが提供する保険は、いざというときの困難からお客様をお守りするものです。
 そして保険という備えは、新しい挑戦をするときの力強い支えにもなります。
 私たちはこれからも、お客様に日々寄り添う存在であり続けます。

世界のお客様の「いざ」というときを支える存在として。

私たちは、保険事業を通じて世界のお客様に安心・安全を提供し、
 地域・社会を支え、持続可能な地球環境づくりに貢献していきます。
 そのために、持てる力を発揮し、日々、発意による誠実で思いやりのある行動を積み重ねて、
 すべてのステークホルダーから信頼される良い会社“Good Company”を目指します。



会社概要 (2017年3月31日現在)	名称	東京海上ホールディングス株式会社	従業員数	38,842名
	代表者	取締役社長 永野 毅		国内損害保険20,538名
	設立日	2002年4月2日		国内生命保険2,249名
	資本金	1,500億円		海外保険13,637名
	事業概要	国内損害保険事業、国内生命保険事業、 海外保険事業、金融・一般事業		金融・一般2,418名

一人ひとりのお客様に「まごころ」を込めて寄り添う



東京海上日動
名古屋損害サービス第一部

藤井 亨



商品・サービスを通じて
安心・安全をお届けする

気候変動や
自然災害に備える

東京海上グループが
取り組んでいくこと

火災罹災時総合サービス『東京海上日動まごころパック』の内容

「お見舞い品セット」

タオル、タワシ、軍手など、罹災時の後片付けに使える小物の詰め合わせ

ガイドブック「お見舞いと罹災後のアドバイス」

火災に遭われたお客様向けに作成しています。罹災後に必要な官公庁への届出や、近隣世帯へのお詫びの仕方、保険金の請求手続きなどについて掲載しています。

建築業者などの紹介

お客様のご要望に応じて、建築業者やハウスクリーニング業者ほか、税務相談、法律相談など、生活再建に必要な業者・専門家を、東京海上グループのネットワークを活用してご紹介します。



「お見舞い品セット」の内容例



「事前の安心」をお届けしたい

愛知県は空き巣の被害件数が多い地域です。県警や損保協会などと連携し、防犯の啓発を行っています。具体的には、名古屋損害サービス第二部が中心となって、空き巣の手口をまとめたチラシを作り、ご契約の際に代理店さんからお客様へ必ずご説明するなどの取り組みを行っています。

お客様に寄り添う思いを形に

災害に遭われたお客様にいち早く保険金をお支払いすることは、保険会社の重要な責任です。しかし、私たちがお届けしたいのは、それだけではありません。お客様の立場に立ち、人生に寄り添う「まごころ」をお届けしたいと考えています。

その思いを形にした取り組みの一つが『東京海上日動まごころパック』です。罹災されたお客様のものと伺いする際に、罹災状況に応じ、片付けに役立つタオルや軍手などの小物を詰め合わせた『お見舞い品セット』や、ガイドブック『お見舞いと

災害を未然に防ぐために
保険会社ができること

災害が起きた後に心を込めた対応を行うのはもちろん、「事前の安心」にも力を入れてきました。保険会社として積み重ねた経験・知見をもとに、動画やチラシを作成し、災害に対する備えの大切さや、保険の役割をお伝えしています。

「近年は、地球規模の気候変動

の影響からか、これまでになかった規模の雹や竜巻などの自然災害も発生しています。災害を未然に防ぐためのノウハウをお客様に提供していくことが大切です」

少しでも早く適切に保険金をお支払いすることはもちろん、日々のコミュニケーションや電話対応など、私たちの行動のすべてが、お客様の安心につながっています。一件一件、一人ひとり、丁寧に対応させていただきます。『まごころ』を忘れることなくお客様に寄り添い、ともに災害被害のない未来を目指し続けることが、私たちの使命です。

若年層にこそ、保険の大切さを 楽しみながら知ってほしい。



商品・サービスを通じて
安心・安全をお届けする

自然災害に備える

少子高齢化に
対応する

デジタル化やAI技術は常に進化しています。

最先端の技術を活かしながら、保険のあり方を改革していくのも東京海上グループの役割です。

2017年3月、新しいサービスとしてスマホ向け保険啓発ゲームアプリ

「保険ヒーローMARINE(マリン)」をリリース、若年層と損害保険の新しい接点が誕生しました。



東京海上日動 ビジネスプロセス改革部

原 昌平(左) 白井 瑤子(右)

原 出発点は、大学生や新入社員などの若い年齢層の方々に、保険や保険会社に興味を持っていただきたいという思いからでした。一般的には、結婚や車の購入時に必要に迫られて、あるいは誰かに勧められて保険を知り、加入することが多いと思います。いざというときにも慌てずに済むように保険はもっと身近で大切なものなのだと、ことを、若い方にも知っていただきたいと考えていました。

白井 小中学生には出前授業などの機会がありますが、大学生や新入社員の方が保険について学ぶ機会には限られているため、かなり積極的な意識が必要になります。よ

り気軽に保険について学べる機会を検討した結果、スマホのアプリにたどり着きました。

原 短い移動時間や授業の合間などに楽しんでもらい、爽やかに学んでいたことを目指して、シューティングやクイズ、ラップ解説を掛け合わせたゲームという方向性になりました。

白井 主人公の「保険ヒーロー」が、人や車や街を、保険の力でリスクから守るというコンセプトで、敵を倒すゲームではなく、保険が守ってくれる、保険があつてよかったと感じてもらえるように工夫を凝らしました。

原 ゲームで集めたパーツをカメラ機能で使えたり、保険辞典の機能

強引に保険ヒーローに任命された主人公。最初はとまどいますが、大切な建物や車、街の人々を守るためにリスクと戦います！



住宅地、公園、公道、市街地とステージが進む。各エリアのボスとのクイズ対決に勝つと、ホケンラップが流れるぞ！



襲い掛かる宇宙ウイルスを倒したり、保険の問題に正解しないと先に進めないぞ！



保険に関する基礎知識やトリビアが満載の保険辞典。ゲーム内のクイズのヒントも得られる！



※「保険ヒーロー MARINE」は、アプリ専用キャラクターです。

みんなでやってみよう

「保険ヒーロー MARINE」の Web サイト



<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/app-hero/>

こちらからダウンロード
できます



アプリを利用した ユーザーからの声

- アプリを通じて保険のことを学ぶうちに、保険は意外と身近な存在だったんだなと気づきました。
- 「挑戦」をテーマにしている東京海上が、ゲームという新しいジャンルに挑戦しているのが印象的でした。
- 保険の「難しそう」というイメージを払拭して、若い世代の人たちにも重要性を伝えてほしいです。

を組み込んだりと、実生活でもいろいろな楽しみ方、活用の仕方ができるのも大きな特徴です。当社として初めTwitter(ツイッター)を使ったキャンペーンを行っているのも、新しい取り組みです。

白井 ゲームの企画を立案した際、社内から「今までにない試みだけれど、本当にできるのか？」という声はありました。しかし、デジタルネイティブ世代に伝えるためには今までのやり方では足りません。大学生などへのインタビュを繰り返し、ゲーム内容を改善してきました。

原 今回、制作会社や声優さんをはじめ、これまで接点のなかった新しい分野の方々と一緒に制作できたことはいい経験になりました。新しいことに積極的に挑戦していけば、会社としても個人としても、人と人とのつながりが生まれ、成長にもつながると実感しています。

白井 こだわって作ってきたアプリなので、私たちが込めた思いや、保険が日常的な安心・安全を支えるものだということが広く伝わってほしいですね。このゲームが、保険のことを考え、感じていただくきっかけになってくれればと思っています。

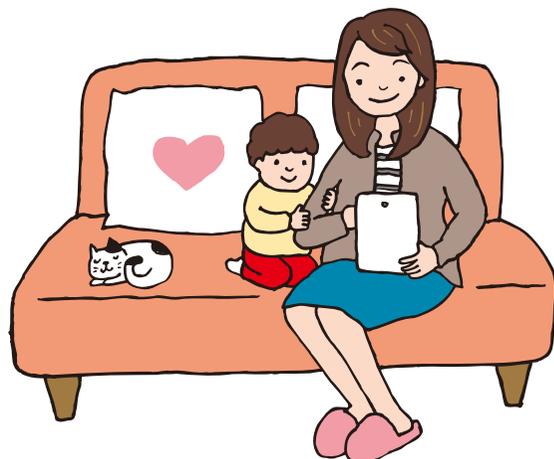
万が一働けなくなっても 家計に不安がないように

病気やケガで働けなくなったときに備えるために、東京海上日動あんしん生命では「**家計保障定期保険NEO 就業不能保障プラン**」を提供しています。死亡・高度障害状態に加え、5疾病（がん、心筋梗塞、脳卒中、肝硬変、慢性腎不全）で就業できなくなった場合等に毎月給付金をお受け取りいただけます。



動画を活用して 自然災害のリスクに備える

台風や大雪、地震等への備えは、お住まいの地域や加入している保険によって変わります。東京海上日動では、お客様ごとに異なる備えや必要な保険の情報をカスタマイズした「**パーソナライズド動画**」を配信。パソコン、スマートフォン、タブレットなどから閲覧でき、災害のリスクや補償内容をわかりやすく確認することができます。



社内で、社会で、 健康を守り育む

東京海上ホールディングスは、健康経営に優れた企業として2年連続で「**健康経営銘柄**」に選定されました。社員等の健康を経営の重要なテーマと考え、健康増進、生活習慣改善、重症化予防、メンタルヘルス等の課題に取り組んでいます。また、お客様企業に対する健康経営推進の支援、健康経営普及に向けた情報発信にも積極的に取り組んでいます。

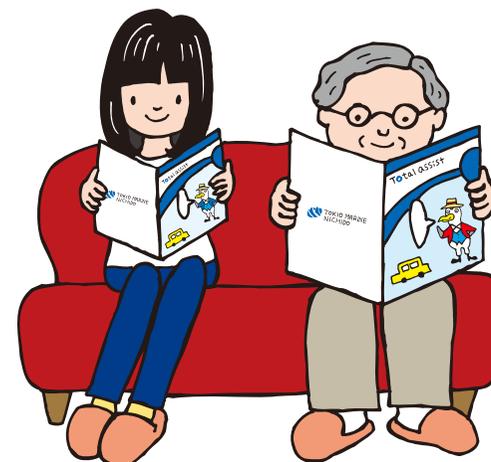


東京海上グループは、グループの総合力や強みを活かし、従来の保険の枠組みを超えたライフスタイルの変化に合わせた新たな商品・サービスを提供することで、多様化するお客様や社会のニーズにお応えしていきます。

読みやすさ・わかりやすさ

大きく読みやすい ご説明ツールを提供

高齢のお客様からいただいた「パンフレットの文字が小さく読みづらい」というご意見に応え、東京海上日動の主要4商品〔トータルアシスト自動車保険、住まいの保険、からだの保険（傷害定額）、超保険〕について、従来のA4判パンフレットをA3判に拡大し、提供しています。高齢者や障がいのある方も含めた多くのお客様にとって読みやすいフォントを使用し、親しみやすいデザインを目指しました。



商品・サービスを通じて
安心・安全をお届けする

気候変動や
自然災害に備える

少子高齢化に
対応する

一人ひとりの暮らしと挑戦を支え続ける。
これまでも、これからも、

地球を守る

地球の未来と、安心できる社会を、つくり続けるために。

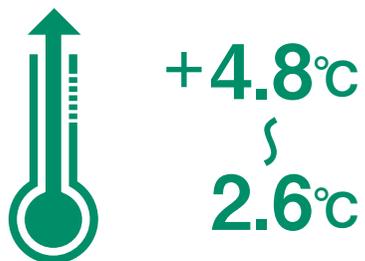
2010～2015年の
世界の森林減少（年平均）



出典：林野庁
*植林等による増加分を差し引いた面積

社会で起きていること

21世紀末の地球の平均気温予測

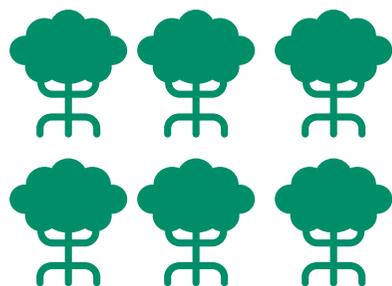


出典：IPCC*第5次評価報告書
*20世紀末に比べ、
非常に高い温室効果ガスの排出量が
続いた場合の予測値
※国連気候変動に関する政府間パネル

東京海上グループが行っていること

マングローブ植林面積

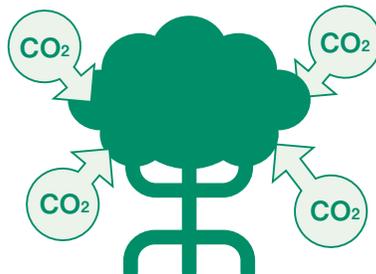
10,103ヘクタール



*2017年3月末時点の累計

マングローブ植林によるCO₂固定量

160,000トンCO₂



*2016年度通年

気候変動による自然災害の深刻化や生物多様性の喪失といった地球環境問題は
人々の暮らしや社会のあり方にも大きな影響を及ぼします。
しかし、課題解決のために知恵を出し合い、行動を起こすことで、
自然環境を守りながら未来の安心を生み出すきっかけをつくることができます。

私たちは、皆様とともに環境保護の活動に取り組み、
豊かな地球と人々が安心できる未来づくりを続けていきます。

技術革新でカーライフを向上

休暇・行楽シーズンなど 必要なときに必要な補償を

借りた車を運転するとき、利用したい分だけ
加入できる東京海上日動の「ちょいのり保険」
は、2017年1月には利用申込件数が300万件
を突破。商品改定で、一度に最大3人まで被
保険者を追加できる、補償期間が保険責任開
始時刻から24時間化する等、より使いやす
い保険になりました。



最新のテクノロジーでカーライフにさらなる安心・安全を

東京海上日動では、オリジナルドライブレコーダーを
活用した個人向けサービス「ドライブレコーダー
パーソナル」を開発しました。ドライブレコーダーが強い衝撃
を検知した際に映像を自動で送信するとともに、事故対
応をサポートする提携企業に自動発
報。ドライブレコーダーで通話ができ
安心です。また、状況に応じて救急
車の手配を行います。その他、危険
地点予測等の事故防止支援や安全運
転診断レポートをご提供します。



自動走行システム普及のセーフティネット

近年普及しつつある各種自動走行システムは、交通事
故の削減や渋滞の緩和など、社会的に大きな意義があ
ります。しかし仮に事故が起こった場合、責任関係が
複雑化する可能性もあります。そこで、東京海上日動
では「被害者救済費用等補償特約」*を開
発。技術が進化する中でも、安心・安全な
クルマ社会の実現に貢献していきます。



※ご契約のお車に想定していない動作が生じたこ
とにより事故が起こり、被保険者に法律上の損害
賠償責任がないことが認められた場合、被害者に
発生した損害を被保険者が負担するために支出

る費用を補償する特約です。ただし、事故の原因
となったお車の動作について、リコールや警察の
捜査等の客観的な事実より確認できる場合に限り
ます。

地域に安全と豊かさをもたらす マングローブの森づくり。

「Green Gift」プロジェクトは、東京海上日動とお客様がともに進める地球環境保護活動です。お客様に「ご契約のしおり（約款）」などを紙の冊子ではなく、Web約款等をご選択いただいた場合、紙資源の使用量削減額の一部を寄付し、国内外での環境保護活動のサポートに役立てています。

マングローブ植林事業は「地球の未来にかけの保険」として1999年から継続しており、2007年にはこの事業を100年続けることを宣言しました。

事業開始当初からの活動地の一つ、フィリピンでは、公益財団法人オイスカを中心に、現地NGO CAMADA等が植林を実施しています。2017年1月の植林ツアーでは、東京海上日動の社員がボランティアとして活動に参加しました。ルソン島の北カマリネス州ホセ・パンガニバンは外洋に面していて、巨大な波と高潮の影響を受けやすい地域です。自然災害から人々の生活を守るため、そしてマングローブの森から豊かな恵みを得るために、2009年から植林グループの皆さんを中心に、植林活動を行っています。



マングローブ 生産物の収穫



マングローブから魚介類や木材、伝統薬などの生産物が得られるようになりました

約**10.7**億円

マングローブ 植林によって 生み出された 経済価値*

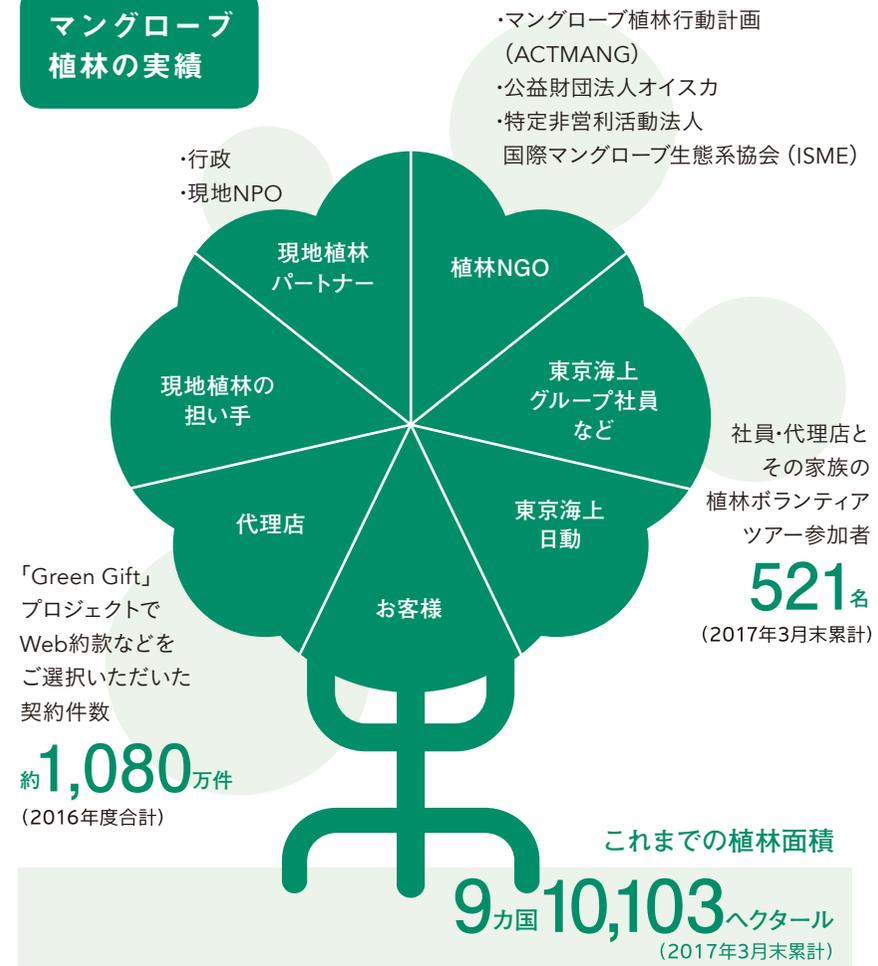
現場外の 漁業生産性の向上



マングローブの近海や沖合の漁業生産高の向上などにより影響をもたらしました

約**10.5**億円

マングローブ 植林の実績



Green Gift マングローブ植林 〈活動事例〉

成長したマングローブ林が、フィリピンの村に豊かな恵みをもたらしています



次の世代も、その先も、植林を続けていきたい

ボイエットさん (植林リーダー)



植林活動を始める前は、村の人たちはマングローブがどれだけ大切なものなのかを理解していませんでした。勉強会を開き、マングローブについてともに学ぶ機会をつくってきました。

今では植林したマングローブの森によってエビやカニがとれるようになり、村の仕事も増えました。台風のときには強い風や波をマングローブが和らげられるようにもなりました。もし台風などで植林した木が傷ついたら、自分たちで再度植林をするほど、村の人たちは森を大切に思うようになっています。

マングローブが毎日の仕事を作ってくれた

ミーヨさん (漁師)



マングローブの植林をする前は、獲れるカニの量は多くありませんでした。しかし植林活動によって森が豊かになると、獲れる量は増えていきました。今では、夕方に仕掛けた網を朝に確認すると、6〜7kgかかることもあります。マングローブは私たちに仕事と収入を与えてくれる、大切な存在です。



地域とともに地球を守る

グローバルな気候変動・気象災害から人々を守る

東京海上グループが取り組んでいくこと

※ 1999年4月から2014年3月末までの期間、フィリピンにおける試算結果

地域の自然と歴史を学び、 ともに未来へつないでいく。

2016年11月、香川県小豆郡豊島でGreen Gift 地球元気プログラムのイベントが開催されました。「ごみ」と「自然」をテーマに、38名の親子が参加しました。

豊島は瀬戸内海に浮かぶ島で、人口約800人が暮らしています。今でこそ豊かな自然とどの風景が広がっていますが、1970年代から13年間にわたり、島外から有害な産業廃棄物が持ち込まれ、島の土地や海が汚染された歴史があります。イベントでは、産業廃棄物処理施設を見学しながら、住民の皆さんから島の歴史を学びました。

その後、農家が営む「砂じいの郷」へ移動。みんなで手作りピザを窯で焼きお昼ごはんを食べたり、稲刈りや芋掘りなどの農業体験を行いました。

子どもたちからは「産廃の問題はショックだった」「食べ物と環境の関連がわかった」、大人からは「過去の出来事を忘れないことが大切」などの感想が上がり、体験を通じて一人ひとりが学び、気づきを得ていました。

主催NPO

特定非営利活動法人
アーキペラゴ

三井 文博さん(左)
串田 えみさん(右)



三井さん 施設の見学や、島の皆さんと料理を作って食べる体験を通じて、参加した子どもたちは普段とは違う気づきや考え方ができたのではないのでしょうか。自然とともにある暮らしのために大切なことは何なのか、これからも意識していただければ幸いです。

串田さん Green Gift 地球元気プログラムでは、代理店さんのネットワークなどを通じて、広く参加の声をかけられるのがよいですね。活動を広げていくのは私たちですが、たくさんの方に注目いただける機会を得られるのは大変意義深いです。

EPO

環境省 四国環境
パートナーシップオフィス
(四国EPO)

亀山 公実子さん



Green Gift 地球元気プログラムでは、NPOと東京海上グループ、EPOの三者が共通の目標を持ち、協働で事業を実施していることに大きな意義を感じています。国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、普段の生活でできることはたくさんあります。地域の環境課題を知ること、土や自然に触れ合うこと、知らない人同士がイベントを通じて知り合うこと。こうした体験から一人ひとりが行動を起こすことで、社会を変える力をみんなで生み出していければと思います。



社員

東京海上日動 高松支店

的野 貫



アーキペラゴさんとは前年も一緒に活動をしており、単発で終わらせたくないと思っていました。Green Gift 地球元気プログラムは、地域の環境NPOと3年間協働する取り組みです。未来のことを考えながら地域に根ざした活動ができるのはよいことだと感じています。子どもたちが楽しんでいる姿が、とても印象的でした。

今後はさらに、代理店さんの参加や社員のボランティアが増えるといいですね。地域を知り、人に触れて、元気になれる。そういった場に自然体で参加する社員がたくさんいる会社こそが、Good Companyだと思っています。

代理店

藤田モータース

藤田 友絵さん



豊島への訪問は農業体験も含めて初めてで、普段の仕事や暮らしの中では会うことのできないたくさんの方々と一緒に過ごす時間はとても貴重な機会でした。子どもたちは、産業廃棄物の多さに驚き、再利用を含め、モノを大事に扱うことの大切さに気がついたようです。また、他の学校の子どもたちとも知り合い、一緒に野菜を採ったりご飯を作ったりと、楽しい時間を過ごしていました。イベントのことを学校の友達にも話して、次の機会には一緒に参加できるといいですね。



イベントの実施団体

主催:特定非営利活動法人 アーキペラゴ
共催:認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
協力:四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)
協賛:東京海上日動 後援:環境省



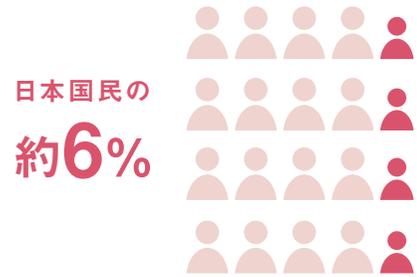
地域とともに
地球を守る

東京海上グループが
取り組んでいくこと

人を支える

多様な人々が、多様に活躍できる社会をつくれます。

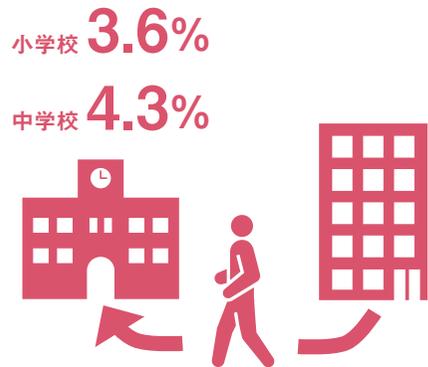
何らかの障がいをもつ人



出典：内閣府「平成27年度障害者白書」
*身体障がい者393.7万人、
知的障がい者74.1万人、精神障がい者320.1万人

社会で起きていること

教員採用者における、
民間企業などで勤務経験のある人の割合



出典：文部科学省（平成28年度試験実施状況）

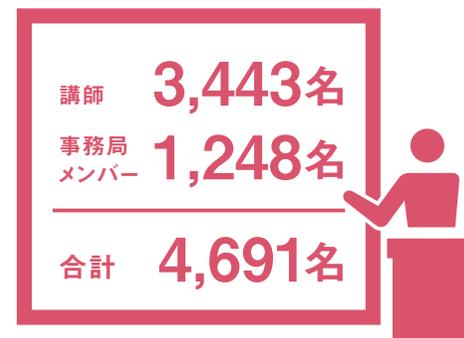
障がい者スポーツの支援



*支援を行っている
日本障がい者スポーツ協会の登録数より
（2017年3月末現在）

東京海上グループが行っていること

出前授業に関わった社員・代理店



*2017年3月末累計

高齢者や、障がいのある人、恵まれない境遇にある人などは、
暮らしの中で困難を感じることが数多くありますが、
適切なサポートがあれば、これまで以上に個性を発揮して活躍できます。

私たちは、ボランティア活動などさまざまな形の支援を行い、
すべての人が安心していきいきと毎日を過ごせる社会をつくれます。

日本全国に広がる Green Gift 地球元気プログラム

日本国内における「Green Gift」プロジェクトは、2013年10月から、国内のNPOなどと協働し、主に子どもたちを対象とした市民参加型の環境保護活動を展開してきました。2016年10月からは「地球元気プログラム」と名称を改め、取り組みをさらに充実させています。東京海上日動は、代理店等のネットワークを活かしてプログラムチラシを配布したり、お客様や連携先をNPOへ紹介することで、より広い出会いのきっかけづくりを応援しています。また、代理店や社員がボランティアとして活動に参加し、地域に深く関わり、頼りにされる存在になることも目指しています。

活動実績
（2013年10月から2017年3月末までの延べ数）
開催数：159回
参加人数：12,308名
（うち子ども 4,571名）



東京海上日動とともに環境保護活動に取り組む21団体（2016年10月以降）

- | | | | |
|------|------------------------|------|-----------------------------------|
| ①北海道 | 特定非営利活動法人 いぶり自然学校 | ⑫大阪 | NPO 法人 日本パークレンジャー協会 |
| ②青森 | 特定非営利活動法人 ECO リパブリック白神 | ⑬兵庫 | 特定非営利活動法人 宝塚 NISITANI |
| ③岩手 | マイムマイム奥州 | ⑭奈良 | 特定非営利活動法人 宙塾 |
| ④秋田 | 一般社団法人 あきた地球環境会議 | ⑮和歌山 | 特定非営利活動法人 Blue Ocean for Children |
| ⑤神奈川 | 特定非営利活動法人 よこはま里山研究所 | ⑯岡山 | 認定特定非営利活動法人
おかやまエネルギーの未来を考える会 |
| ⑥東京 | 公益財団法人 日本自然保護協会 | ⑰香川 | 特定非営利活動法人 アーキペラゴ |
| ⑦群馬 | チャウス自然体験学校 | ⑱愛媛 | 非営利活動法人 どんぐり王国 |
| ⑧山梨 | 特定非営利活動法人 木net やまなし | ⑲熊本 | 特定非営利活動法人 水のとら BELL 隊 |
| ⑨長野 | 特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校 | ⑳大分 | 特定非営利活動法人 ABC 野外教育センター |
| ⑩愛知 | 特定非営利活動法人 もりの学舎自然学校 | ㉑宮崎 | 特定非営利活動法人 大淀川流域ネットワーク |
| ⑪福井 | ハスプロジェクト推進協議会 | | |

みんなでやってみよう



「Green Gift」プロジェクトに参加しよう

東京海上日動の「Green Gift」サイトでは、活動の参加方法や、マングローブ植林活動・国内環境保護活動の活動報告などを掲載しています。「Web約款等を選択して参加」「国内の環境保護活動～地球元気プログラム～」を通じて、ともに地球を守る活動を続けていきましょう。

Web約款等をご選択
いただいた契約数
約1,080万件
（2016年度合計）

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/>

子どもたちの 「未来を築く力」を育みたい。



保険のことを
しっかり学び、
将来活用できるように
なりたいです



目先の利益だけでなく、
長く続けることで
得られる利益も
大切だと思いました



「機会を活かすこと」と
「備えること」を
両立させることが
大切だと思いました



プログラムの概要

生徒たちはグループに分かれ、
パン屋さんの経営者として売上を競う

新商品開発・店内の改装・保険の
加入などの「作戦カード」から、
予算の範囲内でアプローチを選択

ゲーム内では
予期せぬトラブルやチャンスが発生し、
備えの有無が売上に影響する



開発・実施

東京海上日動 経営企画部
高津戸 さおり(右)
ビジネスプロセス改革部
佐藤 順子(中央)
東京海上日動
リスクコンサルティング
製品安全・環境本部
村上 友理(左)



学校では「キャリア教育」の推進に企業等の力
が必要とされていることを知り、保険会社の特性
を活かした「リスクを想定し、将来に備えること」
の大切さを学ぶプログラムを検討してきました。
開発にあたっては、実際にパン屋さんに話を伺い
に行くなどリアリティを追求。現実に近い数値を
用いてカードを作成しました。

何かに挑戦し成長することの楽しさや、仲間と
夢や目標を共有し達成することの喜びを、授業を
通じて感じる瞬間があれば、とてもうれしく思っ
ます。

監修者

千葉大学
教育学部副学部長 教授
藤川 大祐さん



学校では経営やリスクの
課題を学ぶ機会が少ないの
ですが、このプログラムは、子どもたちにとっ
て身近なお店をテーマにカードゲーム化するこ
とで、生徒たちが主体的にコミュニケーション
をとりながら学べるものになっています。経営
者がどのような課題を抱え、不確定要素と向き
合っているか、すなわちリスクマネジメントの重
要性を体験できる点が素晴らしいですね。

社会にはさまざまな職業があることに、子ど
もたちは気づきにくいものです。企業で働いて
いる人が実際に学校に来て、仕事や社会のこ
とをその雰囲気とともに伝えてくれるのは、子ど
もたちの学びにとって大切なことだと感じます。



人を育てる



一人ひとりが、それぞれの個性を尊重して活躍できる社会を築くこと。そのために、東京海上グループは事業のみならず、障がい者支援にも積極的に取り組んできました。

2005年からスペシャルオリンピックス日本を、2008年から全国盲ろう者協会への支援を継続。特に、障がいを超えてスポーツの分野で挑戦を続けているアスリートの皆さんの姿は、私たちの心を大きく動かし続けてきました。2016年には、57競技団体・5万5000人超の障がい者会員が登録

(2017年3月末現在)する日本障がい者スポーツ協会および、日本障がい者サッカー連盟への支援も開始しました。今後も障がい者スポーツ支援に力を入れて取り組んでいきます。

社員が障がい者スポーツを「知る」「見る」「体験する」活動を通じて、個性豊かな人々の挑戦を応援し、多様性を尊重し合う企業文化を育むことができます。すべての人がいきいきと活躍できる社会を築くために、各地で観戦やボランティア等にも積極的に取り組んでいます。

東京海上グループの障がい者スポーツ支援のあり方



「知る」「見る」「体験する」ことで共生社会づくりに貢献していく。



多様性を尊重する

人を育てる

テーマ 3 人を支える

障がい者スポーツ支援

東京海上グループが取り組んでいくこと

みどりの授業 2005年スタート

熊本地震を乗り越え、11年目の活動へ

小学生等が楽しみながら地球環境保護について学べる「みどりの授業」。2017年3月末までに、全国延べ約760の小学校・特別支援学校等で約51,700名の児童・生徒の皆さんに授業を受けていただきました。



東京海上日動 熊本支店 業務グループ

池田 喜代子



東京海上日動 熊本支店では「地域とともにある支店として、未来を担う子どもたちのためにできることをしよう」という思いから「みどりの授業」を10年間続けてきました。これまでに延べ700名を超える生徒の皆さんに参加していただいています。

2016年4月に発生した熊本地震により、県内の

小学校は体育館を避難所にしたたり、休校を余儀なくされるなどの影響を受けました。このため、学校に向かうのを控えてご案内のお手紙のみを差し上げたところ、「2学期は無理だが3学期でよければぜひ実施していただきたい」というお返事をいただきました。地震直後の大変な状況の中、みどりの授業のことを覚えていただいたことに、支店の事務局では大変な感謝を覚えました。

10年前に初めて授業を受けた子どもたちは成人を迎えます。地域の中にある企業として、地域の役に立つことを一つでも続けていこう。その思いを大切に、これからも活動を継続していきます。

東京海上グループの出前授業

ぼうさい授業 2012年スタート

海外で初めての授業を、上海市で実施

地震や津波などの災害が起こる仕組みと備えを子どもたちに教える「ぼうさい授業」。2016年には日本を飛び出し、中国のThe Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Company (China) Limited (TMNCH)でも取り組みが始まりました。

東京海上日動火災保険(中国)

経営企画部

俞 曉瑩(右)

企業リスクマネジメント部

周 曉穎(左)



飽きずに理解できるたくさんの工夫を盛り込みました。その結果、子どもたちだけでなく、先生方や地元行政からも高い評価を受け、「子どもたちに、自分や家族の命を守るための知恵を与えられる大変有意義な講義であり、ぜひ来年も続けてほしい」といった感想もいただきました。

2017年以降は上海以外の拠点にも拡大し、TMNCHの代表的な社会貢献活動として育てていきたいと考えています。

授業の様子を動画でご覧いただけます



<http://www.tokiomarinehd.com/csr/movie/#anc04>

出前授業の実施を希望される学校は、最寄りの東京海上日動までご相談ください。



東京海上日動
千葉支店 埼玉自動車営業第二部
泉澤 博也(左) 秋岡 活哉(右)

泉澤 初めてアンプティサッカーの練習に参加したとき、最初は「支援をする」という気持ちでした。しかし選手たちは勝負にこだわる真のアスリートで、プレーを通じてともに高め合う仲間という意識に変わりました。今後も継続して活動し、後輩や周囲の人たちに伝える役割を担っていきたいです。

秋岡 アンプティサッカーを含めた障がい者スポーツは、プレー環境がまだまだ整っておらず、さまざまな形の支援や認知拡大が必要だと思っています。軸足で体を支えられず、移動範囲が限られる競技を経験したことで、私自身普段のサッカーの競技レベルも上がったと感じています。社員として、一個人として、今後もともにプレーし続けていきます。



参加した子どもたちに協賛各社・団体のグッズをプレゼントしました。東京海上グループでは事前にクリスマスカードを作成し、当日の袋詰め作業も行いました

みんなでやってみよう

障がい者スポーツを「知る」「見る」「体験する」

～7つの障がい者サッカーを観戦・体験しよう

JIFFのWebサイトでは、アンプティサッカー、CPサッカー（脳性まひ）、ソーシャルフットボール（精神障がい）、知的障がい者サッカー、電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー（視覚障がい）、デフサッカー（聴覚障がい）の各団体の試合やイベントの情報を提供しています。

<http://www.jiff.football>



障がい者スポーツ支援〈活動事例〉

障がいの有無を超えて
ともにサッカーを楽しみ、
理解を深め合う場づくり



上肢または下肢の切断障がいを持った人々によって行われるアンプティサッカーは、医療補助器具のクラッチ（杖）を使用してプレーします。東京海上日動のサッカー部はアンプティサッカーチームと合同練習会を行っており、当日もボランティアで参加しました



2016年12月、日本障がい者サッカー連盟（JIFF）主催の「JIFF インクルーシブフットボールフェスタ 2016」が開催されました。東京海上グループでは、体験会やボランティア活動に社員、代理店とその家族、約20名が参加しました。障がい者スポーツを間近に見て、体験する機会は、参加者一人ひとりにとって印象深い経験となりました。障がいがあっても、工夫次第で誰でもスポーツを楽しめることがわかりました。

昨日より今日、今日より明日、
できることが増えていく喜びを大切に



日新火災
安心サービス部
特定非営利活動法人
日本アンプティサッカー協会
理事
新井 誠治

2004年に左膝を複雑骨折した際の検査で大腿に悪性リンパ腫が見つかり、2005年に足を切断せざるを得なくなりました。障がいを負った自分を嫌悪し、病気の再発を恐れ、社会復帰への不安を抱いたこともありましたが、しかしスポーツを始めたことで、体を動かす喜びを取り戻すことができました。2009年にアンプティサッカーに出会い「障がいがあっても激しいコンタクトプレーのある対人スポーツができる!」とのめりこみました。

現在は、アジャスター*として保険の仕事に携わりながら、競技団体の理事を務めて

います。この競技の選手は、事故や病気等それぞれが異なる苦しみを乗り越えてきています。世界に目を向ければ、紛争国の元軍人もいます。「それぞれが望んだ将来ではない」という意味では、このスポーツはないほうがいいのかもしれませんが、けれども「ここに恵まれた環境があれば幸せな物語が始まる」という想いをもって、競技力の向上に取り組んでいます。今後は支援を受けるだけでなく、私たちが社会に提供できるものを探しながら、楽しむことを忘れず競い合っていきたいと思っています。

*自動車修理に関する専門の担当者

「こころのバリア」を取り去り、生で見て、体験して、
障がい者スポーツを知ってほしい



一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟
会長
北澤 豪さん

これまで障がい者サッカーは、7つの競技団体がそれぞれ一懸念に活動してきましたが、規模が小さく、普及や強化もままなりません。JIFFの設立で、各団体の横のつながりができるとともに、東京海上グループのようなパートナー企業の支援も受けやすくなると思っています。

障がいがありながらサッカーを続けている選手たちは、健常者よりも乗り越えてきたものが大きいと思います。身体の動きや機能を制限された中で、どれだけ

創造性を発揮してプレーしているかに注目してもらえると、見え方や捉え方は変わってくるでしょう。

障がいを持つ方にどう接したらいいかわからない方も多いと思います。しかし、生で観て、体験して、ボランティア等さまざまな形で関わることで、多くの気づきを得ることができ、日常の風景の見方や感じ方も変わります。ぜひ恐れずに現場に足を運んでいただき、そこで感じたことを家族や友人、職場の方々に伝えてほしいと思います。

※防災クリアファイルは 紙媒体のみの付録となります。

防災グッズをいつでも備えておきましょう

毎日持ち歩きたいグッズから、非常時に持ち出すためのもの、
家庭に備蓄しておきたいものをクリアファイルにまとめました。

家族で話し合っておきたいポイントも掲載しています。

健康保険証やパスポートなどのコピーを入れて、
防災グッズと一緒にご活用ください。

※防災クリアファイルは日本国内の「ぼうさい授業」(P.22)で、
児童生徒の皆さんに配布しています。

東京海上ホールディングス公式サイト CSRページのご案内

東京海上ホールディングス CSR

検索

本ブックレットは PDF 版も配布しています。
また、「サステナビリティレポート」には、より詳しい情報・データや
各ステークホルダーに対する取り組みなどを掲載しています。
ぜひ、アクセスしてご覧ください。

<http://www.tokiomarinehd.com/csr/>

未来の「いざ」を支える、
強くやさしい存在でありたい。
皆様のお役に立てるよう、
自らも挑戦し続けます。

2016年は、熊本・大分や鳥取で強い地震が
起こり、多くの皆様が被災されました。東京海上
グループではこれまでに、現地でのお客様対応を
はじめ、グループ一体となって被災地を支え続け
てきました。

こうした地震だけでなく、風災、水災などの自
然災害も近年多発しています。また社会に目を向
けますと、人口動態の変化や、人工知能・ビッグ
データ・自動運転といったテクノロジーの進化、地
政学リスクの高まりなど、従来の延長線上にない
目まぐるしい変化が起きています。こうした状況
においては、私たち自身が20年、30年先を見据え、
先手を打って変わっていかなければなりません。
それと同時に、変化を恐れず新しいチャレンジへ
と踏み出す人々を支えるために何ができるか、考
え行動し続けることも求められています。東京海
上日動が、東京2020オリンピック・パラリン
ピック競技大会をゴールド損害保険パートナーと
してサポートするのもその表れです。挑戦につき
ものであるリスクを、私たちができるだけ小さく

する。それによってお客様がもっとチャレンジし
やすくなる。「挑戦の数だけ保険がある」という
ことは私たちの本業の本質であり、「いざ」というと
きに役に立つ」ことが私たちの使命なのです。

それを実現させるには、世界39の国・地域で働
く約4万人の社員の一人ひとりが主体的に動き、
互いを高め合うことがとても大切です。そのため
に会社として、お客様や社員が心身ともに健康に
過ごせるための仕組みづくりを推進し、多様な人
材が活躍できる環境をつくっています。このよう
な私たちの取り組みは広く認められ、経済産業省・
東京証券取引所により「健康経営銘柄」に2年連
続選定されました。

中期経営計画「To Be a Good Company 2017」の
最終年度を迎え、気を引き締めています。「良い
会社「Good Company」を目指し、サステナブルな
未来をつくるために、今後もステークホルダーの
皆様とともに挑戦し続けてまいります。引き続き
のご理解と変わらぬご支援を賜りますよう、よろ
しくお願い申し上げます。



東京2020 ゴールドパートナー (損害保険)



2017年6月
東京海上ホールディングス株式会社
取締役社長グループCEO

永野 毅



「CSRブックレット2017」PDF版は、FSC認証紙に印刷された冊子版のデータを使用して制作しました。

東京海上ホールディングス株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1 東京海上日動ビル新館
TEL 03-6212-3333(代)

To Be a Good Company



